



英國三議法考

6547



6547



英國三議法考

英國ノ政ハ毎ニ三議而後定ルト稱ス歐羅巴各國
 ニ議事院ノ設アルハ世ノ普ク知トコロナリ議事
 院ニ上下ノ兩院アリ上院ハ法律ノ權ヲ操リ下院ハ
 財賦ノ權ヲ操リハ瀛環志略聯邦志略西洋事情等
 ニ概見シタレ凡三議ノ謂ニ至リテハ世ニ明言ス
 ル者ナシ
 抑余嘗コレヲ疑フ議事院ノ設々國ノ輿情公論ヲ
 悉シテ政事ヲ決スルハ美意ナレ凡政事ノ運動一

和久井三郎
 鶴田乙丑
 贈

一コレヲ衆議ニ聽トスレハ惡法ナルノミニ非ス取
謂造室路傍ノ譬ヘニ同シク畢竟行ハル可キ法ニ非
ス西洋諸國ハ決シテ然ラサルヘシ試ニ思ヘ政事
ノ運動一日萬機ソノ瑣小ノ事固リ一一ニ衆議ス
ヘキニ非ス大事ニ至リテモ亦盡ク衆論一定ヲ要セ
ハ機ニ後レ情ヲ滯ラスヲ多カラシ

嘗テ之ヲ考フ政事ノ運動ニ三品アリ必ス衆論一
致ヲ要スルヲ一ナリ必ス諮詢深謀ヲ要スルヲ二
ナリ必ス機括權衡ヲ要スルヲ三ナリ第一品ノヲ
ヲ達スルハ議事院ノ制尤妙ナリ此和漢ノ典故ナリ

第二品ヲ達スルニハ官僚會議若クハ僉議評議等
ノ行ハル所ニシテ苟モ官解アレハ必此事アリ第
三品ヲ達スルハ全ク主任者ノ力量ニ存ス所謂運
用ノ妙ハ一心ニ存スルモノニシテ口モ辨シ難ク
筆モ論シ難シ其人ナレハ略ソノ端ヲ啓キテ衆コ
レヲ默許ス其人ニ非レハ強辨スルト雖モ衆アエヘ
テ許サス凡政事ノ隆替エ、ニ基ヒス法律ノ能故
ヲ取ニ非ス若此三品ノ辨ナリ盡ク衆議ヲ聽テ行
ハ國ノ敗亂立トコロニ至ラン
乃議事院ノ制ヲ三議決定ノ法トヲ詳ニ考フルニ

蓋衆議一致ヲ要スル所アリ又諮詢深謀ヲ要スル
所アリ而テ其機括運動ハ自ラ其人ニ委レテ之ヲ
行ハシム此制度ノ奧ニ至リテハ世ニ未明説スル
モノナシ頃吾友西岡子學議事院説ヲ草シ余ニ示
ス大ニ吾意ニ符契スル所多シ因テ諸書ヲ考據シ
テ其説ヲ申フルヲ左ノ如シ

第一條 議事院名義ノフ

議事院ノ稱呼今ハ普通ノ譯語トナリタレ凡實ハ
集議院ヲ當レリトス蓋此院ニテハ條例ヲ議定ス
事務ノ議ハ別ニ一局アリ後ニ詳ナリ

集議院原名ハ巴力門パルメントト云英國志顛理ニ一千二

百二十五年英人羣議於巴力門原注ニ其始名議

會至此乃有是稱是亦新例トアリ瀛環志略聯邦

志略ニ傍注家コニクレト傍注セルハ疑テク

ハ高門士下院ノ訛語ナラム蓋蘭人ノ

或國會聯邦志略公會瀛環志略ト譯スレ凡皆妄ナラス此法

ノ未立ナル以前ニ英國早ク議會アリ其ノ集議院

ト大ニ相異セリ

英國志ニ英之先民父老集議名曰議會或推一人
主間有教士亦操大權レ議會ノ始ナリ英政如

何ニ昔英國ブタルキイ列國一統の前より其國
々の王各人民を會集し衆議を盡し會議者王を
輔佐し且王の威權を取押へし事も多かりし事
中畧 其時代の會議ハ國の法律を作り又ハ改革
ある 此ハ今の巴カ門の會議 又法を執行し地面争
ひの公事を取捌き大罪人を吟味し刑法を行ひ
用金をあぐり又時とあて王のミニストルをと言
付しあり此會議ハ少くも毎年ニ度ブ立て
國の模様よりてハ其餘より立へき事と取極ま
り此乃議會ナリ英國志ニ巴カ門ト辨別ニ説ク

世ニ議事院制ヲ審ニせサル者ハ巴カ門ヲ此議
會ノ如ク心得タリ大ナル誤ナリ

第二條 議事院上下ヲ分テ名目

英ノ集議院 即巴カ門ヲ 元ハ貴族 即巴カ門 集議ノ所ナ
リ其法ハ一千二百十四年ヨリ叙リ後十一年ニ巴
カ門ノ名トナル 其後三十九年ニ民ノ俊良ナルヲ
擇ヒ巴カ門ニ入ル但一處ニ聚リ東西ニ列スルマ
テナリシニ 一千三百三十一年ニ至リ 西院ヲ分ツ
上院ヲ勞番德士ト云下院ヲ高門士ト云後世之ニ
因ル

英ノ先民父老ノ議會英薩索尼アニコロノ朝ヨリ
貴族ノ議會トナル當時ノ貴族第一等ハ諸王第
二等ハアイル亞爾西洋事情英國志ニ不世襲部長ト注
セル是ナリ第三等ハ舌力弗西洋事情英國志ニ
即中国州縣官ト注セリ第四等ハ塔尼士事情
英國志ニ此軍戸或佃王地或佃部長地後為凡有
英采地者之總名戸有大小視地多寡至諾曼朝謂之
巴倫士ハロニス奈的斯ト注セリ其後諾曼ノ一紡ヨリ維
廉國土ヲ列衣テ軍功ノ親臣ヲ封建セシヨリ巴倫
ノ議會トナル巴倫ハ前ニ見ヘタル如ク元軍戸

ノ稱ナリシニ此比ヨリ有土ノ君ノ稱トセリ英
政如何ニハ口ニハ爵名ハロニスハ爵名ハロニス大名トモ言ヘキモ
知行を領セシ者ナリト今ハ君ト云ヒハロニスのハロニスハ
獨立ハロニスたる地面持の大町人の如クありしなり今
ハ當今ヲ云當時上院ノ議員モ巴倫アリ又下院議員ハ巴倫ハロニストシテ知ヘシ巴
倫ノ議會モ始ハ一定ノ令甲トテハ無クシ英國
志ニ一千二百十四年各部巴倫久以令甲為不便
因重立新法共ハロニス推清於王往復辨論翌年六月議定
名曰馬格那查達之法西洋事情此法ヲ舉タリ英民得自主賴
此也コレ巴力門ノ法律ノ起原ナリ又一千二百

へハ新ニ世祿ヲ與フルヲ禁スルカ故ニ貴族ノ
領地ハ益加増シ世祿陪臣ノ數ハ益減セリト云
英國志ト并セ考ヘテ始テ備ルルヘシ此上下院
ノ分局以後巴カ門ノ議ニ大建置ナシ都鐸^トノ
一朝一^一千四百八十五年ヨリ
一^一千六百^一年ニ至ルマデ
巴カ門大ニ衰微ス
勞^一苗德士英國志ニ即今上院世爵ト注シ高門士
ヲ即下院百姓推舉之士ト注セリ

第三條 上院ノ議員

上院ヲ勞^一苗德士ト云元老院トモ譯シ聯邦志略傍注ニ「セ」トシ
爵房トモ譯シ瀛環志畧英ノ條傍注ニ「ホーケ」トシ
或ハ五爵公

所^一同佛トモ譯ス貴族ノ會議ナリ英ノ制ニ上院ノ
議員ヲ選ム左ノ如シ

第一王族西洋事情ニ王子以下現今女王ノ贅婿ト雖モ皆上院ノ議事官ナリト云ヘリ

英國志ニ上院人^一紗名比^一爾士^一貴^一重無比^一一世爵
或王自拔擢貴戚之編ニアルハ之ヲ云欽千七百三十三年

若^一爾日^一立商稅之法巴カ門往復辨論謂他國皆
不如是中異王不悅其長子以其入巴カ門會中

與大臣相辨難者云是ニテ察スヘシ王若ク
ハ相ノ子弟議會ニ入り善辨難スレハ王相モ
幾分ノ權カヲ増ス王族ノ議員トナルハ王家

ノ名代人ナリ

第二不列顛ノ貴族 英国志ニ云ク二十人 英政如何

ニフリタニヤ官名 馬貴斯二十人 同フリタニヤ官名

のセーク官十九人 英政如何 セーク此官ハ大將トソ

人ナリ 字義の羅旬語より来き ニクイスの官名ハ昔

マルセスの大將タル者ニ與ハタル官名あり

亞爾百十七人 英政如何 非岡二十一人 同

井スコント 英政如何 ニエールの官名ハ貴人トソ

字義ある サクシヨニ語より来き ウ井スコニト官

ハエールの官の副官あり

第三教化師 教大長二人 教長二十四人 英政如何

由ニ吉利堂 フォールスのアルキビシヨツフ官 英政如何 英吉

二人全 ビシヨツフ官二十四人 利とウフォルス ふビシヨツフ 二十六人あり さきと 二

英国十四人のの上院 於て發言 又云アルキビ

シヨツフの位ハ王族の年最若き セーク 官の次

あり ビシヨツフ ハ俗官 ニ比 英政如何 ハ パロニ官 ハ

下界 按スルニ 英国志ニハ 教大長ヲ云克ノ上

ニ叙記セリ

アイルラントノアルキビシヨツフ一人 ビシヨツフ

三人會議毎ハ頒番ニ出席ス

第四代任貴族 巴命百九十八人 英政如何ハ

^五人 英政如何ハ 是ハ昔王より直子領地を請

そのあり 按古ハ封侯の稱今ハ古采ヨリ田

地ヲ持タル紳士ヲ云ナルヘシ

蘇部貴人十六人 英政如何ヨリ又云是ハハル

阿部貴人二十八人 同是ハ生涯選

英国志ニ上院人員數不定王雖得從下院拔入亦

有之事世爵年幼者亦不得入也蓋上院ノ議員ハ

内ニテモ貴重比ナキモノニシテ上下院ノ都合

テ下院ヨリ選舉シテ法ト財トノ權ヲ均クセント

謀リシトモ有レナラン

第四條 下院ノ議員

下院ヲ高門士ト云紳董院トモ譯シ聯邦志畧傍注

トシトシ 鄉紳房瀛環志畧英ノ條傍 或ハ郷士公局トモ

譯ス佛民ノ 佞良ナルヲ公舉シテ會議セシムル

所ナレト漫ニ佞良ヲ舉ルニ非ス郡郷ノ著姓豪族

ヨリ撰舉ス是紳董紳士ノ譯アル所ナリ英ノ制

下院ノ議員ヲ選ム左ノ如シ

英倫エングランドヨリ四百七十一人 西洋事情ニ英倫四十郡ヨ

ヨリ四人 都府ヨリ三百二十四人 大學校ニ所

二人 英国志ニハ四百六十九トアリ 英政如何

ニヨル二千八百五十八年ニ威爾士ヨリ二十九人

蓋此外ニ二人ヲ増タルナリ

志同レ合テ五百人英政如何ニ一千八百五

十八年英吉利ヨリウールズの者五百人ト云ナリ

蘇格蘭五十三人西洋事情ニ三十三郡ヨリ三十

五十三人英政如何同レ

英國志ニハ一人少レ

阿爾蘭百の五人諸書ヨレ事情ニ三十二郡ヨリ

三十三都府ヨリ三十四人大學校一所ヨリ二人

九人合テ百五人ナリ

英國志ニ高門士六百五十六人今ハ三増皆百姓

推選凡百姓得典於推選高門士者止一百五萬

餘人或田主或有房産コレト據ハ高門士ノ

百姓ヲ推舉スル十條ノ禁例ヲ推舉ニ預ルヲ得

立ルト雖モ此外ニ田土房産ノ乏キ者ハ選マ

ル事得サルナリ故ニ英國ノ民口ヨリ選ニ入

ルキ者二十分ノ一ニ滿ス

英國志ニ一千八百三十二年六月七日選舉巴力

門之新法成於英倫名曰英倫理縛米之法

也此新法選舉名爲麥法其實未增高門士人數惟人

地小大多寡分派均勻而已凡得選舉高門士者皆

民間中戸在野者出租金五十以上在城者並得預

推始下此法人曉々幾激變卒之民有疾苦得以上

聞事權亦有所責成不致紊亂其後歐洲四方變故

類仍而英獨審謚此類立法之善

按英政如何ニ下院ノ選舉後未ノ弊事情實ヲ
説テ頗詳ナリ英國志ト合セ考フヘシ此ニ其
内ヨリ此本文ト彼是相登スヘキ條ヲ左ニ摘ム
英政如何ニ郡ノ選み人の身分の事を能會得也
んハ地の領法を知らざれば成難ク今爰其身分の
事を手短に言へし英吉利あり永代四拾シルリガ
の價の地面を持つもの或其身の生涯中又ハ他人の生
涯の間一々年十封度^{ホニト}の價のイステートヲフロルトヲフ
マイルトと名付ル地面を持つもの又ハ六拾ケ年の間右の

價あり別種の地面を借受るもの又ハ一ケ年の地代
五十封度の地面を持つものハ選み人ともふべし英
吉利の都府より價一ケ年十封度の家屋又ハ地面を
借るもの其外フリーメンの自由人及ホルケツス府より免許を持有ハ
選み人ともふべし
アイルラニト并ニスコットランドに於て各
々別子選み人の身分の規則あり
藝術の先生位の者
ハ家財領地をもつハ大學校の人別として選み人とも
ふべし

是ハ諸郡ト都府ト大學校ト三種ノ選舉アリ
取以テ明ラカニスルニ足レリ又英國志ノ新選舉

法一千八百三十二年ノ議定ナリ英政如何ハ
一千八百五十八年ノ政ヲ舉ク然レ其間ニ格別
ノ要草ナキヲ知ルヘシ此ニ英國志ニヨリテ三十二
年後ノ數波蘭ヲ舉ク左ノ如シ以テ取謂曉曉激
変ノ光景ヲ審カニスヘシ

一千八百三十四年巴力門議更恤貧乏法前此有
司強抑地方上戸出賃周貧者而國中每有乞人如
此則重累富家而傭工之人情於食力巴力門議貧
者毋許行乞而損贖事由巴力門酌定以節浮費有
阻之者然此法卒行

向例地方有司由百姓選舉惟上戸得主之中下不
預以故地方官往往虐遇其下法未盡善執政令國
中官缺上中下戸通行推擇一千八百三十五年九
月九日此法遂行此翌年教長ノ俸ヲ麥價ノ平均ノ率概シ
立其翌年ニ鐵道成省巴力門ノ
議ヲ經テ遂ニ議定セリ今抄出セシ
一千八百四十年時有私立議會者曰察爾的斯儀
百姓皆當自主四方皆當立巴力門勿論有產無產
及微賤貧乏之人皆得推擇高門士入巴力門衆論
沸騰勢且謀反之軍士往討之獲叛首三人

按此新法選舉ヲ通七年蓋高門士交代ノ月十九

ヲ以テ此変アリシカ

第五條 上下院ノ議長

勞再德士、高門士兩院俱一人ヲ擇ニ掌之上院ヲ斯
比格トイフ即勞再德士蓋瑟勒ノ人亦刑官ノ長ヲ
兼又下院ヲ斯比格ト云能言ノ人ヲ言ナリ衆議ヲ
聽^{ニテ裁制}以^{ニテ}王^ニ白ス^ニ據^ニ英國志

勞再德士ノ一八第二條詳ナリ蓋瑟勒ノ一八英
國志^{四卷}一、千三百七十七年巴カ門議會始於高
門士中擇一人為斯比格閣下ニ凡會中事皆白于

彼而代言于王ト注ス斯比格ノ名此時ヨリ起ル
上院ノ斯比格ハ上席勤允マニナリ上院ノ人人
ノ説ヲ述ム片ハ之ニ白セス總院ニ言フトス^{如何}

英政如何ニ上院を常例としてロルド、^クヤニセルロル官
をス^ニピーケル^ヲ取^リ頭^トして上席せしむるとありトアハ斯
比格ヨリ刑法事務宰相ヲ勤ムルニ非ス刑法事務
宰相ヨリ斯比格ヲ勤ムルナリ斯比格ノ名ハ下院
始ル後上院之ニ倣テ刑法官長ヲシテ其坐ニ充タルナリ
下院ノ斯比格ハ院中ノ諸取扱ヒ事ノ是派ヲ決断

スル任ナリ 亦英政
如何ニシ

又聽察議而裁制之以台於王

取謂凡會中事皆白于彼而代言于王是ナリ英政
如何ニハルレメントの立ッ方其人数減リテ空位の
出來る時ハ其スピケルより下院總魁の命を以て國
君の祐筆ト書付を以て達スルハ前法の如ク其節
ハ書付を以て觸出スルアリ 上院ハ王ヨリ又
眞觸出ナリ又ハルレメント
休會中ハ空位出來テスピケルへ下院の者二人調
印シテ書付あり其事を達スルハ下院總魁の命
ありテ其節の書付を出シテアリトアリテ以テ事ヲ取
扱フノ一端ヲシルヘシ會議ノ片ニ斯比格ノ職掌ハ

同書卷六ニ詳カナリ

第六條 議事院集散

集議院ハ常ニ開院セルニ由サルト固リ明カナリ
英國志ニ民間自立此會以増修國政此ニ句ヲ善
味フヘシ集議院ハ人民ノ申合ニテ各代人ヲ出
シテ情事ヲ通折スル體裁ナリ故ニ又曰巴カ門上
下兩院共無俸トアリ夫一千ニ益ル議員ヲ民間
ヨリ出シ常時ニ院ニ出仕セシメハ事ニ無用ナ
ルノモナラス亦無用ノ冗費ヲナスヤ
合衆國ニ於テ一任ヲ六載ト定メ十二月ノ首禮拜日

ツ以テ毎年ニ一次ノ集議ナスニテ其ノ若軍國ノ需用アリ
シハ別段ニ衆會ヲナスナリ 聯邦 英ニテハ一任七
歳ニテ集會ハ一定ノ期ナキニ似タリ年ニ一度ヨ
リ二年ニ一度三年ニ一度ナリシトモアリ猶考フ
ヘシ

英政如何ニハルレメニトハ七十年の間ニこの如ク
年限過ぎニ自然ニ退散スル者あり 是ハ限満タル人
ハ其休會ノ後ハ
自ラ議員スラ 離ルトナリシ 又國君死後六ヶ月ニ 退散 是ハ六ヶ
議員スラ改選ニ其命ナキ 且國君ノ威權ナリ 何時モ
ハ自ラ議員ヲ離ルルナリ 是ハ免セラレ 是ハ一任七歳ノ
も退散スル者あり 是ハ免セラレ 是ハ一任七歳ノ

大證ナリ

一八八三年ノ新選舉ノ法ヨリ翌年二月
ニ會集セシハ英阿合一ノ巴カ門第十一次ノ會
ナリ翌年ニ恤貧ノ法ヲ議シ其翌年ニ地方官選
舉法ヲ議シ翌年ニ證印稅ヲ議ス是ハ一年ニ一度
ノ會集ナリ英阿巴カ門ノ合一ハ一八八〇一
年ニ始ル其第十一次ノ會ハ一八八三年ナリ是
三年ニ一會ニ當ル

亦定月ナシ大抵十月ヨリ正月二月ニ會集スル
多シトス

按スルニ合衆國ハ共和政治タルヲ以テ必ス一
年ニ一會シ每會ニ定月アリテ國中合同ノ政典
ヲ議スルナラフニ英ニ於テハ自ラ立君定律體
ヲ通シテ貴族合議共和政治ノ政體ヲ混和セル
モノニテコレニ一定ノ律例ニ思議興ラス財賦ノ
入モ増減ヲ要セサルニハ一年モ二年モ休會シ
事故アルニ臨シ不時ニ會スルノ制度ナリ故ニ會
ニ定數定期ヲ上ニサレナラフニ

凡會議ヲ催スルハ上院ノ議員ハ王ノ手紙ヲ以テ
之ヲ召シ英政如何卷一下院ノ議員ハ王命ヲ勞函德意

一勅刑官長ヨリ
上院長ヲ兼ル者ニ達シ此官ヨリ書付ヲ以テ諸方ニ
出シ人選ヲナサシム當日會集ノ上ニテ奏儀斯比格ヲ公
選セシムルナリ同卷四
卷六

英政如何ニ云ニ此ノ役ナリ觸出タル書付代
官ニ通ル者代官又書付を以テ其郡ある諸府の
人選掛りの役人子達しハルメントの人數を選ま
シモ諸府の役人ハ其命を受くより八日の中ニ人
數を選む郡子於てハ十六日の猶豫あり
會議一定ノ上ニテ閉院ノ時王親臨シ或ハ名代ヲ
以テ之ヲ休ム其不時ノ會ニハ或ハ演達ヲ添ルヲア

リ又慰謝スルヲモアリ 同卷六

第七條 議事ノ式

凡議事ヲ起スハ先其事件ヲ一紙ニ書シ斯比格ニ上ル之ヲ案ニ置テ衆ヲ集テ可否ヲ公議シ衆寡ヲ以テ去取ヲナス必ニ議シテ乃定ル務テ情ヲ盡シ輒容易執政ヲ罪スルヲ得サラシム 英意志 卷八

英政如何ニ此手續キテ詳カニ述ヘタリ此ニ節略シ奉ヘシ上院ニ於ハ貴人法案ヲ持出サントスルニ其趣ヲ惣院ニ告ルノニナリ 上院ノ式ハ下院ニ於テハ先免許ヲ得セシメ其上ニテ日附名書

等多分替ヘキ慶ヲ明タル法案ヲ「イニト口セセル」持出初度讀ヲナシ 此間細式アリ畧ス 即之ヲ板行シ衆ニ分配ス次ノ式日ニ二度目ノ讀ヲナシ是日ニ大趣意ヲ議シ其ノ席々次式日ニ殘置ク次ノ式日ニ評議ノ頭取ニ非ス議長ノ席ニ移シ法案ヲ一ヶ條毎ニ讀上ケ衆議ニ後ニ法案ヲ改繕ス議了ラ斯比格坐ニ復シ頭取改繕ノ法案ヲ提出ス 此時モ議員猶ハ改テヨシ 其ノ三津書レ三度目ノ讀ヲナシ此法案立ヘキヤト問フ 此時モ猶改メテヨシ 異議ナキ取テ他院ニ回スナリ 上院ニハ下院ニ回シ他院ニ於テ猶カクノ

如シ若異議アレハ之ヲ添テ元院ニ送ス元院若シ
 承知セサレハ西院會議シテ之ヲ定ム猶其議合セ
 サレハ法案捨テ法ナリ 元院最前ニ承知セテ
 之ニヨリハ衆寡ヲ以テ去取ヲナスハ一院ノ議
 數端アリ決セサレハ其衆キニ從ヒ若一ハ興スト
 云一ハ廢スト云行違ヒタルハ之ヲ捨ル
 ナルカ衆寡ノ去取ト異議ノ捨棄トハ猶考フヘ
 シ

第八條 加比納ノ議會

集議院ハ前ノ如ク一年若クハ數年ニ一會シ大條

英政如何會計總裁
 アリ第ニ次ニ政府
 物成入費トテ調ヘテ
 其成方ヲルレニト
 連テ職去山豈ヨリカ
 猶考フヘシ

例ヲ公議スルマテニテ終年政事ノ運動ハ全ク加
 比納議會ニテ僉議スルナリ 加比納ノ人員ハ

- 第一 輔相即加比納ナリ 會計事務宰相トモ云又
國王ノコミニエルトモ云其
 局ヲ密ニス德カト云英國志ニ加比納ヲ
 機密履ト注シ密ニス德カヲ言執國政者ト注シ
- 第二 賦稅事務宰相 英政如何ノ官庫總監
蓋此官ヲ云ナラレ
- 第三 刑法事務宰相 蓋瑟勒是ナリ
此官英政如何
 勝角德
- 第四 口ルトブレシテント、フフセコニエニル
此官英政如何
 ニヨル然此役自
 不詳トアリ西洋事情ニハナシ

- 第五 內國事務宰相 英政如何ノ口ルト、アリ内井ノセイル
英國志ニ治本國事トアハ比自是ナリ
- 第六 外國事務宰相 英政如何ノ外國事務總裁
英國志ニ治列邦事トアハ比自是ナリ

英政如何ノ國內事務總裁
 英國志ニモ亦是カ
 英國志ニモ亦是カ

第七 海外取領事務宰相 英政如何印度事務宰相 英國志一治屬地事是ナリ

第八 軍國事務宰相 西洋事情ニシテ英政如何軍事局總裁英國志治軍旅事是ナリ

第九 阿函蘭事務宰相 英國志三西洋事情 英政如何共ニハス

第十 會計總裁 英政如何ニヨル英國志ニ有以斯所格亦蓋拜也專掌賦稅ナリ是ナリ

此外英政如何ニハラニカストル公領ノ千ヤニ世也

海軍局惣奉行 英國志ニ亞密拉的者取防汎地掌水師事ナリ是ナリ 交易局惣

裁ヲ舉ク英國志ニ奧爾德難斯者掌軍國公府

又有印度公司事掌本國事商買事等官總名之

曰加比納議會^{大臣}凡其此數人者謀之トアリ

按スルニ英國志ニ成而行之亦自王出國事政刑

財賦及與列邦盟會戰守商賈出入貨稅公司領事

兵船軍士各地方事宜分立官員共襄庶政辨曰加

比納又曰密尼斯德力朝廷用人必擇^ハ力門

所推重者一人為首輔領度支亦任以銓選之職其

次節勞爾德^{大臣}又掌上院事外又有五人^{ナリ}

總名之曰加比納議會此文ニヨルハ加比納ノ首輔

ハ巴力門推重スル所ノモ^ニシテ度支ヲ領ト亦

銓選ヲモ^ウニ依タリ之ヲ西洋事情ニ考^レレハ云

政府又號令ノ國書ヲ出ル^ニテ王^家ヨリ出

ルモノト視做セリ王家ノ大臣十四名アリ其内

權威最大ナル者ハ第一錢貨出納ノ權ヲトル宰
相ヲ即大尚老ナリ第二ハ賦稅事務宰相第三ハ
刑法事務宰相ナリ然レハ首輔ハ錢貨出納ノ
權ヲ執次ニ又賦稅ヲ掌ル宰相アリ度支銓選ヲ
掌ル者ハ孰レヲカ審ララス又英政如何ヲ
考フルニ曰國君を助言シ國の政事を執行する
用向ハ專ニ國の重立たるミニストル之をあらわ
此ミニストル局をケヒ子ツトコニシユルと云取次ハ
密議方の中より國君の信用ある者を選び出シ
國君のケヒ子ツト密談ヲ入シテ萬事をお供せ

より起まり又云國君ハミニストルを自ら命し又
人を選び選まざるも事自在なりトアルニテ看ハ加
比納ノ專權タル首輔ハ國王の信用スル人ヲ命スル
方ニテ巴カ門ノ信用スル人ヲ必擇フニハ非ス
又曰通例ミニストル局の人數左の通り 官庫總
監此係ハ上席のミニストル勤むるとあり但時々
より上席のミニストルハ他の役を勤むる事あり
且ト曰イテヤセシロル此役ハミニストル局の法
律相談役あり云々此文を詳カニスルニ國王ハコニシ
ヲ舎キ其餘ノミニストル局ノ員スを擧タルナリ官庫

總監ヲ上席トス即所謂度支ヲ領スル者ニラ時
トシテ他ノ役ヲ勤ムルトハ所謂銓選ノ職ヲ勤ムル
ナリ此官ヲ若国王ノコニシル勤ムルナラハ上席ノ
ミニストトシト處ニ文ヲ扱スルニ及ハス国王ノコニシル
勤ムルナラヘシ蓋国王ノコニシルハ王ノ信用スル人
官庫總監、議院ノ信用スル人、刑法官長、上院
ノ議長ヲ兼ヌ如此ミニストトシ局ノ席上ニハ王及
ヒ上下院ノ信用ヲ平均シ各其重スル所ヲ委任
シ而ラ大閣老ハ必ス王ノ信用スル人ニテ其密議
ヲ受テ政事ヲ運動ス此其務ノ尤モ微意アル所ナラシ

第九條 三等ノ會議並圖

英國志一曰國政必王與上下兩院詢謀僉同其
有不善者國人咸歸咎執政再曰凡有事中略必三
議乃定當廷諍時務盡情不得輒罷執政成而行之亦
自王出三曰國中大臣王與貴人及百姓三等會議
而行之中略三等之議トハ一ハ加比納、議ス乃王
ト執政大臣トノ議ナリ

加比納ヲ機密所トモ譯シ又密議方トモ云密議
所トモ云英政如何王ト執政ト一日萬機ノ裁判
ヲスル局ナリ我政府、同シ凡政事ノ運動我所

謂機括權衡、諮詢深謀、全ク此局ニテ行フ
二ハ勞而德士ニテ貴族ノ議ヲ合ス之ハ高門士ニ
ニテ紳紳ノ議ヲ合ス此兩會議ハ王典ハラス
英國志ニ巴力門會議王不與聞惟聚散時王親臨
之トアル是ナリ聚散ニ王ノ親臨スルハ第六條ニ
詳カナリ集會ノ日ハ多ク親臨セス

其議スル條件ハ貴族ハ貴族ノ僉同ヲ要スルヲア
リ紳紳ハ紳紳ノ僉同ヲ要スルヲアリ強テ公議ヲ
求テ政事ヲ下民ニ問フハ此ス上院ノ議ヲ籌議
ト云下院ノ議ヲ籌辦ト云議辦兩字ノ別甚妙ナルヲ

嘗テ須ク玩索スヘレ

瀛環志略ニ大約刑賞征伐條例諸事有爵者主議
増減課稅籌辦餉則全由紳紳主議之英ノ此
ニ籌辦ノ字ヲ出ス公議一定ノ上ニ之ヲ辨シ出
スヲ云又佛朗西ノ條ニ國有大政如刑賞征代之
類則令公取籌議開稅餉則令公局籌辦之法
律ノ下ニ上院ニ公議一定ノ上ニ之條例ヲ改
正ス之ヲ施行スルハ政府ニアリ故ニ籌議ト云
後餉々下院ノ議同意スレハ退テ之ヲ辨シラ政
府ニ納ル故ニ籌辦ト云

第十條 下院財賦ヲ籌辦スルノ權
英ノ財賦ハ下院ノ會議僉同ノ上ニテ之ヲ出ス
此權ニ至リテハ加比納政勞再德士院モ依違ス
ルニ過キス

英國志ニ凡納稅捐餉等事悉高門士為政上院
諸人依違而已是依上院高門士權過上院君相政
有不善即不納賦稅於朝廷此依違モ西洋事情
ニ下院ハ錢穀手形ノヲヲ議論スルノ特權ア
リ此特權ハ上院ノ羨ム取ナレ氏決シテ之ヲ
他ニ許サス姓按スルニ公議セシメテ租稅ノ出サシ

其以テ然ル所ヲ知ラント欲セシ先西洋ノ税法
 東洋ニ異ナル所ヲ知ヘシ此ニ英ニ據テ之ヲ略
 言セシ英ノ古昔ハ其賦稅多ク之ヲ王ニ納ム頗
 東洋ニ類セリ
 英國志ニ英薩之朝平準金銀貨直其權皆歸于

君トハ諸侯ヲ云
 女邪古時封侯
 物ヲサス

王及王人出入皆地方供張徵榭林之稅民間窖
 藏之無主者皆歸于王金寶之礦歸于王商船之
 漂壞者其貨歸于王房產林麓之賦歸于王コレ
 ニテ知ヘシ但此數ノモノ王ノ威權ヲ以テ之
 ヲ收取スルノミ我及ヒ友那ノ国土ハ王及君
 ノ所用ニテ民ハ之ヲ受テ耕藝シ賦稅ヲ上ル
 政體ニハ非ス
 諾曼ノ朝維廉第ヨリ土田ヲ裂テ勳舊軍士ニ分
 與セシヨリ賦稅ハ巴侖者ノ采地ノ有トナリ之ヲ
 リ幾分ヲ王ニ納レ此ニ於テ賦稅ノ權ハ巴侖ニ

歸ス

同書ニ自諾人之來主於英也英之政教一愛國
論中田産多為諾人所據中略巴倫及国人皆能挾
制於王使其權有限教部長與巴倫士奈的斯集
議者三圖議国政凡有賦稅或出自部長或出自
巴倫士奈的斯可否皆經議會議定此較前英薩
朝議會更有條理法是而人非議會權重納銀嚮
職損下益上為害匪淺

北藍大日奈之朝ニ至リ馬格那查達之約法ヲ立
テ約翰王再ヒ底大拉日疴ノ法立テ其權遂ニ巴

力門ニ歸ス

馬格那查達ノ法ハ一千二百十五年ニ議定セ
ル法ナリ見前西洋事情ニ此法律ノ大意ハ
二ヶ条アリ第一ヶ条ハ國會ノ大議ニテ免許
スルニ非レハ国民ヨリ軍役ノ代トシテ金ヲ
收ムヘカラストノフナリ此條令ハ唯世祿ノ
土地ヲ領セル貴族ノタメニ益アルノミニテ
国王私家ノ為ニハ不便利ナリ云々是ニテ概
視スヘシ實ハ六ヶ條アリ法底大拉日疴ノ法
ハ一千三百六年ニ定マル第一德豆的英国志ニ

去王徵賦稅而不由巴力門議定之弊也馬格那法立巴倫トリ後モ王勳モスレハ財用ヲ下ニ誅求シ巴倫トリ諍論ニ及ヘルヲ多シ英國志詳ナリ
此法後王輒依違國人則視為根本以此大意謂納賦於王權自民操也

此比ヨリ巴倫議會記ニ唱フカ分レテ上下院トナリ巴倫ノ權モ亦漸ク分レテ高門士ニ歸ス
同書ニ義德五第二王在位時授民以大權君欲罪巴倫必問高門士巴倫欲叛其君亦必問高門士法令制度出於王必合教長亞再巴倫及高門士議成之否則不行英民得共聞國政自此始也

コ、巴倫ノ議院分レテ高門士トナリ高門士權ヲトルノ由來ナリ又曰當是時巴倫士ノ大者為亞再有田產及屬下甚多無產而有聲于時者王召入巴力門上院亦稱巴倫先是召入議會以敵亞再廢置不常至是乃為世爵視中國男爵
其次者漸降為高門士此ヲ巴倫ハ漸ク降りテ高門士ヨリ漸ク上リテ巴倫トナリ西院ノ權力相分レテ遂ニ今ニ至ル原由ナリ
蓋諾曼封建ノ後ソノ常勢王ハ巴倫ヲ抑壓セシト欲シ巴倫ハ王ヲ挾制セシト欲シ皆カヲ高門

士ニ借ル其財賦ヲ納ル、高門士ハ巴命ノ重歛
ヲ苦ミ一王ニ納ル、ノ輕ク且足リ易キ希望ス
ル情アリ王ハ巴命ノ挾制ヲ惡ミ衆民ノ皆已ニ
直納スルノ便利ヲ望ム心アリ此等ノ情ヨリ
王ト巴命ト高門士ト互ニ權ヲ爭ヒ終ニ封建ノ
制敗レテ有土ノ貴族御已斃ル、ニ至レリ
一々三百年王ト巴命ト互ニ相諍論シ一千四
百八十五年紅白玫瑰花黨ノ戰ヒ止テ都鐸
ノ朝顯理第七トナルマテノ情事ハ英国志卷
四ヲミルヘシ

巴命已ニ倒レ高門士ノ財賦ヲ皆王ニ直納スル
ハ一旦便利ナレ凡亦巴命ノ挾制ナキヲ以テ王
ノ權威張リテ都鐸ノ朝ヨリ下民其淫侈暴虐
ニ困テ

英国志ニ都鐸再一朝王盡握權百姓鑒於前之
禍亂類仍苟安無事故巴力門西院衰盡服於王
惟上所欲為焉是ニテ察スヘシ
斯委亞再的ノ朝ニ至リ高門士亦王ト抗シ其誅
求ヲ拒ム之カ為ニ王位弒廢數度ニ及ヘリ
英国志ニ惹迷斯第一時巴力門始願獻納於王

俾之資用但王無以酬答國人之意惟以之馳騁
田獵鬥雞臂鷹夜則飲宴淫樂觀時時與高門士
相齟齬不喜法律之有成於是高門士亦與王相
抗刑官長哥克亦以律法事亦與王相抗至今人
猶賴之以不肯從王所欲也
是ヨリ王ニ美政アレハ高門士悦テ多ク財用ヲ
王ニ納ル否スレハ肯テ多ク之ヲ納レス上院ノ
世爵ハ其納否ヲ律法ヲ以テ依違スルニ過ス而
テ王ノ淫資ハ屈シテ下ニ貸債スルニ至ル
英國志ニ初查再斯第二得立為王巴力門甚喜

每歲納金一百二十萬王自奉而百官祿入亦厚
惹迷斯第二即位亦如之後增至二百萬金維廉
第三世 既立欲得前項如惹迷斯時高門士一百
二十萬金且納一年而分數項半給王家官俸半
備國用凡兵船軍士火藥器械所需一切悉歸下
院核實至今守其亂法而高門士常司度支

是下院ニテ財賦ヲ籌辦スルノ原由ナリ故英國
ノ財賦濁ノ英國ノ税法ハ大抵皆同シハ官ニ定額アル
漢土ノ貢助徹租庸調ノ法ノ如キニ非ス年々ニ
歲出ノ數ヲ量リ法案ヲ草シ巴力門ニ徵ス巴力

門ノ集議ニテ勞再德士ハ其法律ニ合ヤ否ヤヲ
主議シ高門士ハ其數ノ當否ト緩急ト輕重トヲ
主議シ然ヘシト同スレハ旧ヨリ豐十ニ必之
ヲ辨ス若然ヘカラストスレハ旧ヨリ儉十ニ
必之ヲ拒ム是ヲ量出制入ノ制ト云

英国志ニ大英財賦之用出於關稅地租及國債
均由巴力門議納視國家緩急無有定額此其證
ナリ量出制入ノ一萬國史略ニ三エ
國政益舉リ文教昌明ナレハ生齒財賄必ス年ヲ
追テ繁息ス故ニ國ノ經費モ亦年ヲ追テ廣マル

勢ヒ一年ノ例ヲ引テ數年ノ費ヲ概徴シ難シ故
ニ一年若クハ二年ニ巴力門ヲ起シ之ヲ議セ
ルヲ得ス乃非常軍國ノ費アレハ又特議ヲ起シ
之ヲ議セサレハ其費用何ヲ以テ之ヲ辨セシ此
高門士ノ設クル所以ナリ

